

給食だより

令和2年 1月

舞鶴市立余内小学校

～1月は全国学校給食週間があります～



全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割などについて理解と関心を高め、より一層の充実をはかることを目的として定められました。

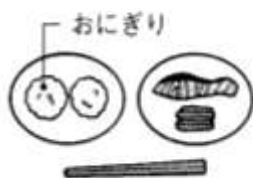
余内小学校では、1月20日～24日までが給食週間です。

毎日の給食や家での食事について振り返り、食事と健康との関わりや栄養について学習します。また、食事を作ってくれる人の努力や苦勞を知り、感謝する心、食べ物の大切さについて考えます。

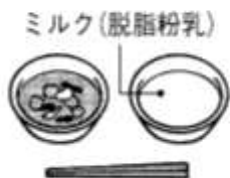
学校給食は、戦争により中断していましたが、アメリカのLARA（アジア救済公認団体）等の物資援助で再開されました。昭和21年12月24日に給食物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」と定め、後に冬休みと重ならない1か月後の1月24日～30日が「全国学校給食週間」となりました。

学校給食の移り変わり

明治22年



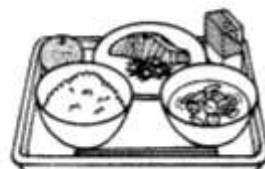
昭和22年



昭和27年



現在



学校給食は、明治22年（1889年）に山形県の忠愛小学校で、貧困児童を対象に無償で昼食を提供したのが始まりです。その後、さまざまな歴史を経て、今に至っています。どの時代も子ども達が健やかに成長することを願って提供されてきました。

当初は栄養補給が第一の目的でしたが、今では、食事のマナーを身につける、地域の食材や郷土食などを知るといった役割もあります。

舞鶴市ではすべての学校にオープンが設置され、焼き魚やグラタンなど、いろいろな献立が給食に登場するようになりました。

学校給食と家庭での食事の両方を通して、食に関するいろいろな知識を身につけてほしいと思います。



給食がみなさんの口に入るまでに

- 米、麦、野菜、果物を作る人
- 牛、ぶた、にわとりを育てる人
- 魚やわかめをとる人
- 食べ物を運ぶ人
- パン屋さん、牛乳屋さん、八百屋さん、魚屋さん、お肉屋さん、豆腐屋さん
- 栄養を考えて献立を作る学校の栄養士
- おいしく食べて欲しいと願いながら作る調理員さん など



たくさんの人々の努力があって給食ができています。

★感謝して食べよう★



この給食週間の期間を通し、作ってくださる方をはじめ、たくさんの方の働きや努力で給食が成り立っているということ、また私たちは食べ物から命をいただいていることに気づき、感謝の気持ちを持って食べましょう。

給食週間中、学校でお世話になっている八百屋さん、魚屋さん、牛乳屋さんなど給食に関わってくださる方を紹介する掲示物を掲示しています。



しよくじ いみし 食事のあいさつの意味を知ろう!

いただきます



食事で動植物の命を“いただいて“いること、食事ができることへの感謝の気持ちがこめられています。山のてっぺんを「頂（いただき）」といいます。昔、大切なものをもらうとき、一度頭の上にかかげ、かしくまって頂戴したことから生まれた言葉ともいわれます。

ごちそうさま



「ちそう（馳走）」とは「走り回る」という意味です。昔、大切な人をもてなすために遠くまで駆け回り、食べ物を集めてくれた人への感謝を表す言葉です。毎日食事ができるかげには、さまざまな人の仕事や協力があります。感謝をこめてあいさつをしましょう。